

博報財団 第13回「博報日本研究フェローシップ」成果報告書

I. 研究成果概要

氏名(フリガナ)	BRECHER William Puck (ブレッカー ウィリアム パック)
在住国名	アメリカ
所属・役職	ワシントン州立大学 日本史 准教授
招聘回(招聘研究期間)	第13回 (2019年 3月 1日～ 2019年 8月 31日)
受入機関	京都大学
招聘研究テーマ	自律性と青少年: 明治・大正期社会における個性と国民形成
研究目的	私的領域の歴史的発展を明らかにするため
研究成果概要	
<p>1. どのように研究を進めたか(具体的に)</p> <p>京都大学では研究室を用意いただき図書館の蔵書、資料の貸し出し、利用ができるようご配慮いただいた。私は京都大学の図書館が所有する蔵書から歴史的資料、文献を探し出し、精読することに多くの時間を費やした。国立国会図書館が所有しているものから見つけた文献もある。それらの文献はほぼ自分で読み理解することができたが受け入れ教授の倉石先生は助手を見つけてくださり、難度の高い文献、特に江戸時代のものに関して手伝っていただいた。現在は将来的に出版を目指している本のため何章かを執筆し始めているところである。</p>	
<p>2. 研究によりどのような知見が得られたか(具体的に)</p> <p>日本における私的領域の歴史を、「公」(政治権力)との関係のなかで明らかにするため、文献資料の調査を行った。それには育児、教育、児童の余暇の過ごし方(休日やスポーツなど)が含まれる。このようなテーマの文献を読み進めるうち「公」と「私」での活動の中で歴史的な関係性の変化の方向性を示すことができた。</p> <p>明治期から大正期にかけて、公権力がどのように行使され、「私」が定められたか、また、近代化のプロセスの中でどのように「公」と「私」の新しい定義やそれらの表現への疑念が求められたかがわかった。これは特に教育、若者の余暇の過ごし方における領域で顕著に見られる。そして、おそらく予想に反して、研究調査では第一に近代化というコンテキストで「公」と「私」間での前近代の対話関係が変わりつつあるということ、第二に、明治・大正期の私的領域は議論され、2つの交錯する実体(公共財、そして近代国家形成の手段)に形を変えたことが明らかになった。</p>	
<p>3. 研究成果(予定を含む)</p> <p>○論文(題目, 掲載誌, 発行者, 掲載月, 内容の概略(200字以内))</p> <p>私は論文集に入れるための一章を執筆し、提出した。その章の題は“War Games: The Meiji Shrine Games (1924-43) as Civil Religion”(戦争ゲーム: 市民宗教としての明治神宮競技大会)であり、<i>Beyond the Five Rings: Religion and Sport in Japan</i> (五輪を超えて: 日本における宗教とスポーツ)(編者: ザッカリー・スミス、ステファン・コベル、デニス・フロスト)という本に含まれる章である。この本は現在、ハワイ大学出版社により出版が検討されている。この章では、どのように帝国政府が陸上競技を使って、統制を強化し、支持を集め、抵抗を次第に弱体化させていったかを明治神宮競技大会を通して改めて考察している。またその時点での「信教の自由」の実態、特に「市民(世俗的な)宗教」としての国家神道との共存についても考察している。本稿では明治神宮競技大会と帝国周辺の展開に焦点を当てることで、政府によって市民宗教がどのように実施されたか、また、それがもたらした様々な結果を検証している。</p> <p>○口頭発表(題目, イベントの名称, 日・場所, 内容の概略(200字以内))</p>	

“Individuality 「個性」in Meiji-Taisho Education(明治・大正期史の教育における個性)京都アジア研究会、日本、京都、2019年6月18日。50年以上に渡って日本政府、教育者だけでなく社会通念上においても現代教育の基本理念として「個性尊重」を熱心に推し進めてきた。この発表では、どのように明治期の教育機関が構想され、教育当局が個性を評価するため「個性調査簿」を考案したかを説明している。また、その当局が国家構築の手段として西洋の文明思想のこの教義をどのように作り替えたかを考察している。

“War Games: Athletics as National Defense in Imperial Japan”(戦争ゲーム：大日本帝国における国防としての運動競技)Asian Studies Conference Japanの年次学会、2019年6月30、埼玉大学開催。

この論文では国家の運動競技の利用、特に明治神宮競技大会が博愛心を表し国内外の困難と立ち向かうため国民に準備をさせるものとして見ている。まず1924年から1943年の間に式典や運動競技がどのように進化していったかという概要を述べ、次に国民のニーズと国家の競技事項の変化を説明するため、その変動を考察している。

○その他の活動

初代中村仲蔵(1736-1790)の興味深い日記が見つかった。これは、貴重で稀な史料であるが、英語には翻訳されておらず英語圏の学界ではほぼ知られていない。そのため助手の水谷千景さんの協力を得てこの日記を英訳する計画を立て始めている。

4. 今後の活動予定

現段階では資料、文献等の調査を終えこの研究課題についての本の原稿を執筆している。また今後の予定としては1600年から1930年代の日本の私的領域の歴史的な展開に関して原稿を書き終えることを考えている。企画書をすでに Brill 社に送付しており、将来的に出版に至ることを願っている。